

令和6年度前期始業式 校長挨拶

令和6年4月9日（火）

皆さんおはようございます。

新年度の始まりということで、先ほどは、新しくお見えになった先生方を紹介しました。

ここで、もう1人、紹介したい人がいます。

今年度、本校で受け入れることになったNathan Connorsさんです。

本人から自己紹介をしてもらいます。

<Nathanさんの自己紹介>

もしかすると、はじめのうちは、Nathanの外見やバックグラウンドの違いのほうが気になる人もいるかもしれませんが、彼の内面、つまり、興味・関心や、考えていること、目指していることなどをベースに相互理解を深めてもらって、1人の友人として受け入れてもらえると大変嬉しいです。

考えてみると、普段一緒にいる仲間や家族でも、興味・関心や得意・不得意、物事のとらえ方などは異なります。一人ひとりが異なる個性を持っているという認識に立って、お互いを尊重し合えるようにもなってほしいと思います。

さて、この春休み中に、『社会を変える学校、学校を変える社会』という本を読みました。

東京都千代田区麴町中学校の元校長である工藤勇一先生と、株式会社植松電機の社長である植松努氏の対談本です。

工藤先生は、学校教育の改革者として有名な方です。植松氏は様々な宇宙開発に関わり、全国の大学生や研究者をサポートしています。北海道の会社に年間1万人以上の修学旅行生を受け入れて、ロケット教室を行っておられます。

私は、「思うは招く」という植松氏のスピーチ動画に感銘を受けて以来、植松氏が書かれた本を読むなどしてきました。皆さんも、時間があるときに、植松氏の本を読んだり動画を視聴したりしてもらえればと思います。未来に向かうためのモチベーション、自分らしさ、失敗のとらえ方など、

いろいろなことに関する力強いアドバイスがもらえると思います。

先ほどの本の話に戻ります。この本の中で、植松氏は、次のように述べています。

「社会は変わりました。これからもっと大きく変わります。僕たちは、古い社会の常識を普通なものとして学んできました。でもそれは、今の子どもたちが生きる『これからの世界』では通用しない可能性があります。大人たちが理解できる範囲内に子どもを押しとどめてしまったら、それを強いられた子どもたちは間違いなく、大人世代が達成できたこと以上のところへは行けません。」

「大人が子どもたちを管理するのではなくて、子どもたちを押し上げる存在でないといけないということを本当に忘れないでいてほしいと思います。(中略) 子どもたちがやろうとしていることを、自分の過去の経験で押しとどめないでほしいのです。むしろ、一緒になってどうやったら実現できるかなと考えてほしいです。」

高志高校・中学校の学校経営は、植松氏が述べるような考えの上に立って、これからも行っていきたいと考えています。

高志高校は、今年の教育目標として、生徒の皆さんに次のような人になってもらうことを掲げています。それは、「夢・希望の実現のために、自ら考え、自ら目標を設定し、自ら学び、果敢にチャレンジすることのできる人」です。中学校も、表現は異なりますが、同じような目標を掲げました。

私たちは、生徒の皆さんに、将来の目標（実現したいこと、叶えたい夢など）を持ってほしいと思います。それは、人と同じである必要はありません。むしろ、違って当然ではないかと思います。

そして、目標を実現するための方法を考え、見通しを持って、努力や実践を続けてください。先生方の支援が必要なときには、遠慮なく相談や依頼をしてください。皆さんの夢を叶える方法が、先生方にも分からないことがあるかもしれませんが、一緒に考えながら伴走したり見守ったりすることはできると思います。

先生やその他の大人たちからの指示を待つだけ、指示に従うだけではなく、皆さん自身が主体的に考え行動することによって、活気溢れる学校にしてもらいたいと願っています。

以上で、私の話を終わります。